

# 渥美郡三町の時代



郷土史編さん室 ☎36-6503

## ダイヤル式電話の普及

昭和30年代には渥美郡内の電話加入者は少なく、電話のない世帯は、電話のあるところで借りてかけていました。また、交換取扱者の手を経なければならず、自動で相手につながりたいへん便利になるところで、

●郡内の電話ダイヤル化

年月	地区
昭和42.2	田原局 (田原、神戸)
42.10	渥美局 伊良湖岬局
45.5	赤羽根局
46.3	和地局
47.1	野田局
47.7	六連局
48.2	泉局

上表のよ  
うに地区  
ごとに順  
次ダイヤ  
ル化が進  
められま



●神戸郵便局で電話を借りている様子(昭和31年／神戸郵便局提供)

した。  
こうして渥美郡全域のダイヤル化が完成しました。各地区とも、それまで電話のなかった世帯も、ダイヤル化に合わせて大部分の世帯が加入しました。  
昭和30年代後半にテレビが大部分の家庭に普及したのに比べると、約10

年遅いわけですが、それでも、他の市町村と比べて、人口の少ない農村地域としては早い方です。  
『東三河における電話のあゆみ(電話機械戦後編)』(豊橋電報電話局、東三河機械むつみ会発行、昭和62年)に次のような話が載っています。

昭和39年ごろ、田原青年経済研究会のある会合で、電話の不便さが話題となりました。これがきっかけとなって、田原で町をあげての電話ダイヤル化促進運動が行われました。そのため、早期に渥美郡全体のダイヤル化が実現したというのです。  
ところで、ダイヤル化を進めるためにはその地域の加入希望者を増やす必要があります。その際、基本料金の安い住宅用よりも、高い事務用の方が早く電話が引けるからということ、渥美郡ではほとんどの農家が、高い事務用の電話に加入することになりました。他の市町村の農家は、安い住宅用の電話でした。

●ダイヤル化後の自動式卓上電話機  
(田原市民俗資料館所蔵)



事務用であれば職業別電話帳に載ります。住宅用では載りませんが、多くの農家にとって職業別電話帳に載らなくても不便はありません。早くダイヤル式電話が引けた便利さと引き換えにその後何年も高い基本料金を払うことになったことも、また歴史の真相の一コマなのです。昭和50年版の職業別電話帳を見ると、全三河の「農業・農場」のページの3分の1を渥美郡3町で占めています。  
近年では携帯電話の普及により固定電話の利用は減少し、公衆電話の撤去が進められてきました。しかし、災害時に備えて公衆電話が見直され、新しい動きとして、田原市では住民の要望を受けて集会所などに新たに設置されています。

(執筆委員・加藤克己)